

## ドバイ渡航で気付いた日本の課題

中東の要衝であるドバイでは現在、万博が開催されています。世界中の国々や企業などがパビリオンを持ち、最先端の技術や研究、文化、歴史などを展示しています。私は、とある日本企業のパビリオンにインターンとして参加し、来場されたお客様に製品の説明などを行いました。

インターンを通じて自分の英語がビジネスの場でどの程度通用するのかが分かり、自分の目指すべき次の英語レベルが明らかになりましたし、国境を超えたビジネスの現場を見るのは初めてだったので、非常に勉強になりました。各国の展示で紹介されていた最新テクノロジーも面白かったですし、初めてのイスラム圏への渡航も刺激的でした。それら全てについて、感じたこと、学んだことを執筆したいところなのですが、今回はこの旅で痛感した、日本の環境問題に対する取り組みの遅れに焦点をおきたいと思います。

まず、万博では、プラスチック製品が非常に少ないことが印象的でした。ペットボトルに入った水は売られておらず、基本的に缶の水を購入することになっていました。お土産袋は、agricultural fiber でできており、「ONCE UPON A TIME, I WAS WASTE」という記載がありました。

また、私が往復に利用したエミレーツ航空では、機内食のカトラリーが使い捨てではなく、金属製のものが使用されており、メインディッシュの蓋もアルミでした。その一方、日本の航空会社を利用した友人によると、機内食の蓋は基本的にプラスチックで、カトラリーも使い捨てのものだったそうです。

インターンとして、商品の説明をしているときには、海外のお客様に「この製品はリサイクルできるのか?」、「この製品はリサイクルされたもので作っているのか?」など、環境的な観点から質問されることも多かったです。海外では、eco-friendly への意識が非常に強いと感じました。

eco-friendly なものへの切り替えは、概してコストがかかりますし、利便性の観点などでも劣ることが多いと思います。「自分には関係ない、将来の問題だろう」、「自分がやってもさほど変わらない」という思考に陥ってしまうかもしれませんが、その一人ひとりの小さな取り組みが大きな変化につながります。一人ひとりが当事者意識を持って、日本でも、トップダウンからもボトムアップからも、環境問題への取り組みが加速されることを願うとともに、自分にできることを続けていきたいです。

この旅を通じて、環境問題に対する取り組みに対する遅れだけでなく、紙ベースでの帰国者の管理などからデジタルに対する遅れも垣間見ました。日本の課題を痛感した旅ではありましたが、一方で日本の良さにも気付きました。万博の日本パビリオンは非常に人気で、常に行列ができており、日本の文化、技術がこれほど多くの人を虜にしているのかと嬉しく感じました。

「日本はダメだ」という言説も、「日本はやはり素晴らしい国だ」という言説も、耳にたこができるほど聞いたことがあると思います。しかし、日本を変えていけるか、日本の素晴らしさを後世に繋いでいけるかは、私たちの行動にかかっていると思います。私は日本が好きだからこそ、より良い社会を作っていけるよう精進して参ります。